

小さな道の安全・安心を 実現するための支援ツール

～JMDSとの連携に着目して～



目次

1 コンソーシアムの取組概要 … 3

2 安全安心を実現するための支援ツールの紹介 … 4

(1)研究開発中のツール概要

(2)“小さな道の交通課題可視化ツール”の紹介

(3)“生活道路の対策効果試算ツール”の紹介

3 JMDSへの期待 … 7

(1)交通安全事業に取り組む上での課題感

(2)私たちがJMDSへ期待すること

1. コンソーシアムの取組概要

安全・安心上の課題把握・分析を行い、“小さな道”の改善を推進するための検討環境の構築や取組の支援方法についての研究開発

研究開発 内容

理論・データに基づく
検討環境構築



実現方策の検討と
政策パッケージ化



推進施策の支援



3つの手段を立体的に組合せ、自治体・関係省庁の取り組みを支援

出口戦略

自治体



自らが課題把握・分析を行い、
地域の合意を得ながら、
“小さな道”の改善を推進

支援

関係省庁



“小さな道”に関わる
安全・安心施策を推進

目指す社会

子どもだけで
安全に安心して通学



地域の道が
住民のコミュニティを形成



小さな道が公共空間として
賑わいを創出



※その他キーワード #滞留・休憩 #ゾーン30 #車両進入抑制 #バリアフリー #エリア内モビリティ…

2. 安全安心を実現するための支援ツールの紹介 (1)研究開発中のツール概要

交通安全施策実施時の各段階で利用できる“支援ツール”を研究開発中

小さな道における安全対策の例

例えばゾーン30プラスや通学路合同点検などの実施時において

STEP
00

対策を始める

STEP
01

地区の課題を知る

STEP
02

対策案を考える

STEP
03

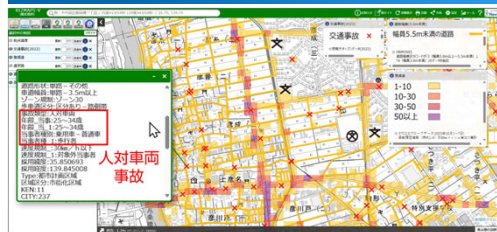
対策を実施する

STEP
04

課題解決を確認する

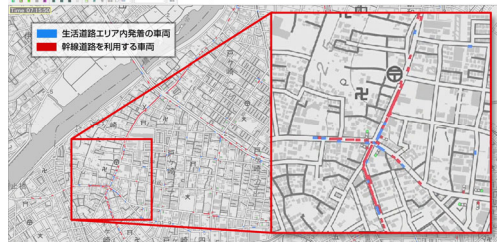
提供財①

交通課題可視化ツール



提供財②

対策効果試算ツール



提供財③

政策パッケージ
導入ガイド



データの読み取り方

合意形成のノウハウ


補助金申請支援

各種道路交通データをWEB地図上で重ね合わせる“交通課題可視化ツール”

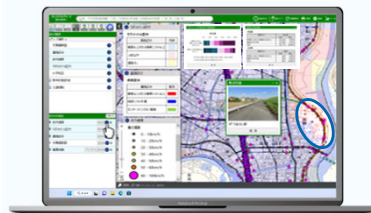
インプット 

- ・ 道路交通に関する各種データを入力
- ・ データの一部はJMDBとAPI連携
- ・ 他データも入力可能にカスタマイズ

	地図(背景)
	小学校区
	道路(幅員別)
	交通規制
	交通事故
	急減速情報
	交通量
	走行速度
	通学路
	地域要望

可視化ツール 

小さな道の 交通課題可視化ツール



- 緯度経度情報を持つ、GeoJson形式やGeoTIFF形式のデータをアップロード
- メニュー設定やデータ更新は、IDとパスワードで管理
- 簡易作図や印刷機能も有する

アウトプット 

各種情報・データを
同一地図に重ね合わせ

WEB上で任意の
スケール・項目で確認

地域別の
安全性/危険性評価

具体的な
危険箇所の提案 ※今後

活用方法 

危険箇所の検討

対策箇所の選定

要望箇所の確認

必要性の説明

道路交通データを入力し、対策前後の交通量変化を確認する“効果試算ツール”

インプット 

- ・ 地域内の道路と、車両の移動に関するデータを入力
- ・ データの一部はJMDSとAPI連携
- ・ データセット作成の簡易化は今後も要検討



プローブ



交通量



ODデータ




ゾーン情報



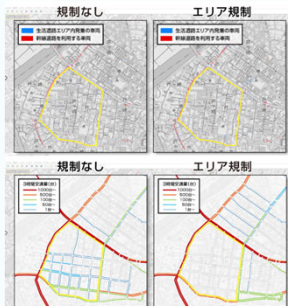
信号情報



道路ネットワーク

効果試算ツール 

生活道路の 対策効果試算ツール



- 一般街路を対象とした交通流シミュレーション
ハイブリッドブロック密度法、動的経路選択モデル
- 極力少ない入力パラメータ
- GUI、アニメーション機能

アウトプット 

リンク別交通量

平均旅行時間・速度

リンク内存在台数

車両の移動経路

活用方法 

安全対策
の効果

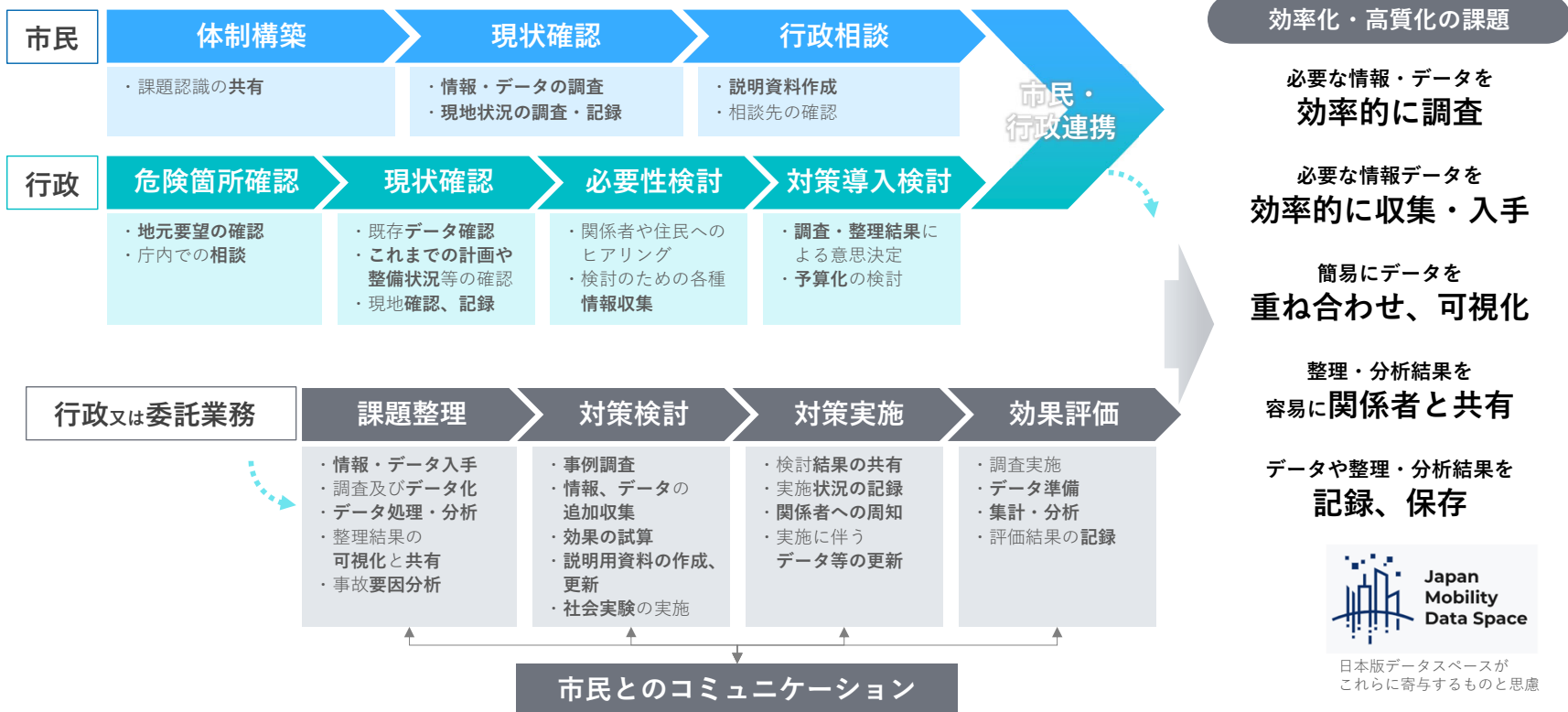
交通規制
の影響

流動変化
の予測

施策効果
の説明

3. JMDSへの期待 (1)交通安全事業に取り組む上での課題感

現在の交通安全事業においては、効率化・高質化のための課題が山積



3. (2) 私たちがJMDSへ期待すること

“データ一括入手”“デジタルサンドボックス機能搭載”等、JMDSの有効性を実感

データの一括入手



Japan Mobility Data Space

生活道路の危険箇所の特定や交通安全事業を検討するためには、以下のようなデータが必要です。

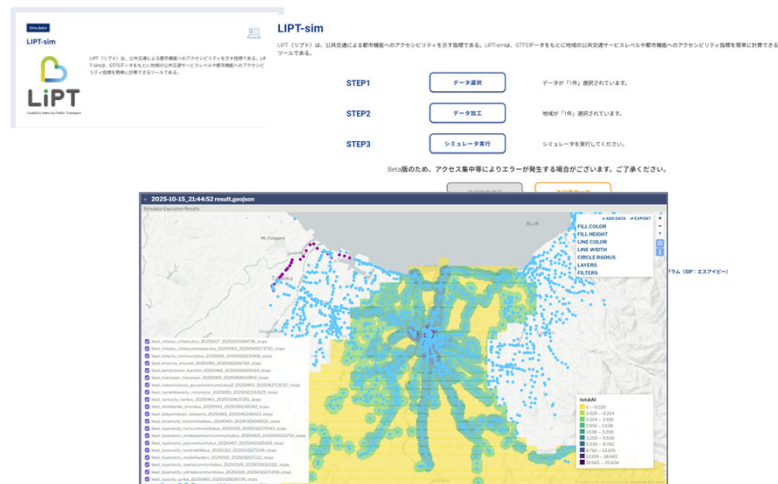
1. **交通事故データ**
- **使い方**：過去の交通事故の発生地点、事故の種類、時間帯、天候条件などを分析することで、危険箇所を特定します。事故の多発地点を地図上にプロットし、対策を講じるべきエリアを明確にします。
2. **交通量データ**
- **使い方**：特定の道路や交差点における交通量を把握することで、混雑状況や交通の流れを分析します。交通量が多い場所は事故のリスクが高くなるため、重点的に調査します。
3. **歩行・車の交差**
- **使い方
4. **道路

道路の交通に関する統計

道路の交通に関する統計は、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路上において、車両、路面電車及び列車の交通によって起こされた人の死亡又は負傷を伴う事故を対象とし、全国の都道府県警察から報告された資料により作成した公的統計です。本統計では、これらの事故や、それによる24時間以内死者、負傷者、30日以内死者の状況を把握して、国の交通安全対策の立案や交通事故の防止活動などに役立てています。

- LLMにより、必要となるデータの検索が可能
- 一部データは、API連携で一括取得が可能
- 公共データとしての信頼度やLLMの精度については今後向上が必要

デジタルサンドボックス機能



LiPT-sim

LiPT (LiPT-sim) は、国土交通省による都市計画・都市設計・都市開発のためのデジタルプラットフォームです。LiPT-simは、LiPTの機能をさらに拡張し、都市計画・都市設計・都市開発のためのデジタルプラットフォームを提供しています。

STEP1: データ選択
STEP2: データ加工
STEP3: シミュレーション実行

データが「1回」選択されています。
地図が「1回」選択されています。
シミュレーションを実行してください。

国土計画のための、アクセス集中等によりエラーが発生する場合がございます。ご了承ください。

2025-10-15_214452 result.png

2025-10-15_214452 result.png

- WEB利用が可能であることから、ネットワーク環境さえ整えば、誰もがシミュレーション可能
- 必要データの整備やシミュレーション実行時間、ユーザーインターフェース等、各種課題もあり

3. (2) 私たちがJMDSへ期待すること

JMDSのさらなる進展と利活用により、小さな道の安全施策推進が期待

Point

01 パイプライン

- データの探索
- 情報のデータ化
- データ利用環境の向上
- ワンストップでの入手
- 基盤上での重ね合わせ

Point

02 横展開

- 他事例や情報の入手
- 品質が確保された成果
- 好事例の試行
- 関連分野への展開
(自転車、バリフリ、賑わい、観光等々)

Point

03 利用拡大

- 場所や環境に依存しない柔軟な利用
- 自治体やコンサルタント以外への利用者拡大



JICE

